

開館40周年記念特別展

「太陽の塔からみんなくへ」
70万博収集資料」

1968年から1969年にかけて「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団」が世界の諸民族の仮面、神像、生活用品を収集しました。収集活動にかかわる書簡や写真とあわせてコレクションの生い立ちを紹介します。これらの資料は、70年大阪万博で太陽の塔（テーマ館）の地下に展示され、現在、みんなくの貴重なコレクションとなっています。

会期 3月8日(木)～5月29日(火)
会場 特別展示館



假面(韓国)

開館40周年記念企画展
アイヌ工芸品展

「現れよ。森羅の生命——
木彫家 藤戸竹喜の世界」
熊をはじめとする北の動物たちからアイヌ文化伝承者の等身大の彫像まで、藤戸竹喜(1934)の主な作品をとおして、創作活動の軌跡とその背景をたどります。

会期 1月11日(木)～3月13日(火)
会場 本館企画展示場



「ふくろう祭り ヤイタンキエカシ像」
2013年 鶴雅リゾート(株)蔵
撮影 露口啓二

みんなく映画会・第39回ワールドシネマ
「テレビジョン」

厳格なイスラームを遵守するバングラデシュの小さな村の騒動をとおして、宗教と現代文明のあり方を考えます。

日時 2月10日(土)13時30分～16時30分
(13時開場)

みんなく映画会・公開セミナー
「渡り鳥と人のかかわり」(仮題)

北東アジア地域の渡り鳥と人のかかわり方を、生き物の視点から、映画や討論会をとおして紹介します。

日時 2月11日(日)13時～16時
(12時30分開場)

会場 本館講堂(定員450名)
※申込不要、要展示観覧券
※入場整理券を当日11時から本館2階講堂前にて配布

展示場クイズ「みんなく」総集編

これまで実施した「みんなく」の中から、「衣食・住」に関する問題を集め、出題します。

期間 1月30日(火)まで
場所 本館展示場
※全問回答した方に記念品進呈

連続講座

「みんなく×ナレッジキャピタル
フィールドワークを語る」

開館40周年を迎えたみんなくの展示を生み出すもとなつた、数多くのフィールドワークについてお話しします(全6回)。

会場 グランフロント大阪北館1階
ナレッジキャピタル「カフェエラボ」
※要事前申込、参加費500円(1ドリンク付き)、定員各回50名
主催 国立民族学博物館
一般社団法人ナレッジキャピタル
株式会社KMO

「ソースコムユニティの人々との資料熟覧
博物館収蔵庫でのフィールドワーク」

日時 1月10日(水)19時～20時30分
(18時30分開場)
講師 伊藤敦規(本館 准教授)

「世界の屋根」で言語を求めろ」

日時 1月24日(水)19時～20時30分
(18時30分開場)
講師 吉岡乾(本館 助教)

カレンシニアター
「地球探究紀行」

※要事前申込(参加状況により当日受付あり)、
参加費1000円、定員各回50名
主催 産経新聞社
共催 近鉄文化サロン、スペース9
特別協力 国立民族学博物館、千里文化財団

「みんなくの台湾研究」

日時 1月10日(水)13時～14時30分
講師 野林厚志(本館 教授)

「マイナス30度の世界に生きる
狩猟民チユクチの暮らし」

日時 1月24日(水)14時～15時30分
講師 池谷和信(本館 教授)
会場 あべのハルカス25F「貸会議室C」
お申し込み・お問い合わせ先
ウエーブ産経カレンシニアター係
06・6633・9087

●年始の開館のお知らせ

年始は1月5日(金)から開館します。
※各イベントについてくわしくはみんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

みんなくゼミナール

日時 1月20日(土)13時30分～15時(13時開場)
会場 本館講堂
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は展示観覧券が必要です)
第476回

木彫り熊からアートモニュメントまで

五十嵐聡美(北海道立近代美術館)
貝澤徹(木彫家)
岡田恵介(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構)
齋藤玲子(本館 准教授)

10代で熊を彫り始め、80歳の年にJR札幌駅のアートモニュメントのメインとして、アイヌの長老の像、エカシ像、クリムセ(弓の舞)を制作した藤戸竹喜氏。さまざまな立場から、企画展の趣旨と作品の魅力について語ります。



JR札幌駅の「エカシ像 クリムセ(弓の舞)」(イランカラッテキャンペーン)

みんなくウィークエンド・サロン
研究者と話す

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」調査している地域(国)の最新情報「みんなくの展示資料について分かりやすくお話しします。」

1月7日(日)14時30分～15時30分
本館第5セミナー室
「数」をあらわす——
音声言語と手話言語
話者 菊澤律子(本館 准教授)
相良啓子(本館 特任助教)

1月14日(日)14時30分～15時
本館第3セミナー室
トナカイの角
話者 卯田宗平(本館 准教授)

刊行物紹介

■公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 編
『現れよ。森羅の生命——
木彫家 藤戸竹喜の世界』

千里文化財団
1,800円(税別)

アイヌ民族の彫りの技を受け継ぎながら、熊や狼、ラッコやシャチ、北に生きた先人たちの姿を木に刻み、繊細さと野性味が交差する独自の木彫世界を築いてきた藤戸竹喜の作品を紹介する。



■広瀬 浩二郎 著

『目に見えない世界を歩く
——「全盲」のフィールドワーク』

平凡社
820円(税別)

障害当事者の立場から盲人史研究に取り組み、現在は独自の(触文化論)を展開する人類学者がその半生を軽快に綴る。

「全盲」から考える社会、文化、人間。目が見えないからこそ見える世界とは。



1月21日(日)14時30分～15時 本館第7セミナー室
音楽を展示する試み
話者 寺田吉孝(本館 教授)

1月28日(日)14時30分～15時30分
本館第3セミナー室→中国地域の文化展示場
フィールドワークの醍醐味
——雲南省大理での30年を通して
話者 横山廣子(本館 教授)
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
ただし、7日(日)、14日(日)、21日(日)は展示観覧券不要

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 本館第5セミナー室 ※当日先着順(定員96名)
会員無料(会員証提示)、一般500円
※1月、2月の講演会の登壇者が変更になりました。

第473回 1月6日(土)13時30分～14時40分
タヒチとイースター島——楽園と崩壊の対比
講師 印東道子(本館 教授)

ポリネシアの多くの島は10世紀ごろまで無人島でした。大陸から遠く離れたこれら熱帯の島々には、食用できる植物はほとんどありませんでした。それを楽園のような環境に作り変えたのは、海を越えて西から移住してきたポリネシア人でした。島という限られた自然環境に移住するにあたって、どんな準備や工夫をし、楽園とまで呼ばれた環境を作り出したのか、あるいは失敗したのか、タヒチとイースター島という対照的な例を紹介します。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会(40分)をおこないます。講師が長年発掘調査を続けているミクロネシアの島で発掘した、約1000年前の土器や釣り針、貝製品などの出土遺物をご覧いただけます。

第474回 2月3日(土)13時30分～14時40分
日本文明の夜明け——梅棹忠夫と三内丸山遺跡
講師 小山修三(本館 名誉教授)

一九九三年に発見された三内丸山遺跡の六本柱の巨大モニュメントは、小規模な狩猟採集段階にあったとされていた縄文時代の社会の在り方の再考をつなぐました。梅棹忠夫はこの遺跡を訪れたあと、「都市的性格が強くその中心となったのが神殿であった」と述べました。日本の歴史を文明という一本の線上で捉えようとする、この大胆な仮説の成立過程とそれがその後の研究の展開にどのような影響を与えたかを考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会(40分)をおこないます。

東京講演会

第121回 1月27日(土)13時30分～14時40分
カザフの食と儀礼——ひとの一生を彩る草原の恵み
講師 藤本透子(本館 准教授)
会場 モンベル御徒町店4Fサロン※事前申込(定員60名)

第77回体験セミナー
植物から博物学の世界を知る

——東京大学総合研究博物館見学
2月24日(土)【申込締切 2月9日(金)】